



「おもちゃまつりへようこそ」の単元では、おまつりに園児を招いて交流を図ることを単元のゴールとして設定しました。第9時、10時は、事前練習として1年生とおまつりをして、改善点を考える時間としました。「自分の学びの成果や課題を把握する」（調整）「課題を次への学びに生かす」（調整）場面を仕組みました。



輪投げに挑戦する1年生の姿



学習計画へ

【自分の学びの成果や課題を把握する】

1年生を招いて「おもちゃまつり」を開催しました。子供たちは、自分たちが準備したおもちゃで1年生が楽しそうに遊ぶ姿を見て、満足していました。

しかし、年下の子との交流を通して、遊びの説明が1年生にはわかりづらい表現であったり、投げる距離が遠すぎたりするなどの課題が明らかになりました。

【課題を次の学びに生かす】

1年生との「おもちゃまつり」を終えた後、園児との交流に向けて話し合いました。「輪投げは1年生でも遠くて入らなかった」「作るのに時間がかかって、余り遊べなかった」など、様々な課題が挙がりました。

これらの発言を受けて、作り方の説明文を見直す児童Aや、実際に何度も輪を投げて園児が楽しめる距離を検討する児童Bの姿がありました。児童Cのグループでは、再度ルールを見直す話し合いが始まりました。

教師の働きかけ

1年生を招いておまつりを開催し、事前練習だけでなく、年下の子との関わりを通して充実感を味わったり、課題を明らかにしたりする場を設けました。

「1年生が楽しめるおまつりにしよう」という本時の目標を振り返り、園児との交流に向けて、どのように改善すればよいかを問い直す時間を設けました。

1年生を招いたおまつりで、よかった点・反省点・困った点などを話し合う場を設け、自分たちの取り組みを振り返る機会としました。

様々な視点から改善策を考えられるように、グループごとの課題を全体で共有できる場を設けました。



おもちゃの調整をする子供の姿

振り返りの場を設け、自分たちの取り組みを見直すことで、よかった点（成果）だけでなく、自分たちやお客さん（1年生）が困ったことや、変更すべき点（課題）を把握することができました。

課題を把握することで、園児との交流に向けて、グループ内で自分たちの店をよりよいものにしようと、主体的に話し合う姿が見られました。

